

## 歴博くらしの植物苑だより

第97回くらしの植物苑観察会 4月29日(日) 13:30~15:30

「くらしの植物苑と下総の森」 鈴木三男 東北大学植物園

当日は歴博みどりの日入苑無料



### 次回季節の伝統植物 『伝統の桜草』

4月17日(火) ~5月6日(日)

桜草雑壇・東屋・温室に250品種の桜草を展示いたします。ことしは八重の桜草。無弁花の桜草を新たに展示いたします。

バイモ (ユリ科バイモ属)

中国原産の多年草で、漢方薬として栽培されています。花の外側は淡黄緑色で、内側には紫色の網目模様があります。このことから編笠百合とも呼ばれます。昨年に比べ早くに咲き始めました。



ヒサカキ (ツバキ科ヒサカキ属)

山地に普通にみられる雌雄異株の常緑低木です。左は雄株でめしべは退化しています。右は雌株です。花には独特の都市ガスのような匂いがあります。



フッキソウ (ツゲ科フッキソウ属)

山地の日陰に小群をつくる草本的な常緑低木です。葉の寿命は通常2年で、地面を這うように茎が伸び群をつくります。花には花弁がなく4枚のがくがあります、写真は雄花で4本のおしべがめだちます。



カンヒザクラ (バラ科サクラ属)

中国南部、台湾に自生し、沖縄には野生化しているさくらで、葉が開く前に濃紫紅の花が下を向いて咲きます。春早く咲くサクラとしてよく植えられています。



ハチジョウキブシ (キブシ科キブシ属)

早春の山に黄色の花穂をたれた花で、よく目立ちます。落葉の低木で雌雄異株です。城址公園にはキブシがありますが、苑内のものは花や花序が大きいハチジョウキブシといわれるもので、写真は雄株のもので、



アブラチャン (クスノキ科クロモジ属)

谷筋などに生える落葉小高木で、雌雄異株です。左が雄株で小さい花がたくさんついています。右が雌株です。種子からとれる油は中部地方では灯用に用いました。枝葉も油分を含むので生木でもよく燃えます。



シデコブシ (モクレン科モクレン属)

本州中部の限られた地域の丘陵の縁に分布します、それらは東海丘陵要素といわれます。多数の美しい花が咲くので、庭園花木として植えられています。



ハナニラ (ユリ科ハナニラ属)

原産国はアルゼンチンで、星のような淡青色の花をつける球根植物です。この名はニラの臭いがあるために付けられたといわれています。



モミジイチゴ (バラ科キイチゴ属)

低木の中媒花で、花はがく片5枚、花弁5枚、雄しべと雌しべは多数あります。葉がモミジのような葉をもつことからモミジイチゴといわれます。キイチゴ属は日本に35種もあります。



ショカツサイ (アブラナ科オオアラセイトウ属)

中国原産の1~2年草で、江戸時代には栽培されていたといわれます。一度植えるところぼれ種子でどんどん増えます。

